

尚 和 会 会 報 **2004**
平成16年5月1日



拡がる同窓の輪、あの時のあの人は…



尚和会総会のご案内

平成16年5月16日(日) (受付11:30~)

ホテルアイボリーにて (豊中駅東口すぐ ☎ 06-6849-1111)

- 総 会 …………… オークッドホール 12:00~12:30
- 立食パーティー …………… オークッドホール 12:45~15:00
- アトラクション …………… ヴォーカルグループ アヴァロン
ピンゴゲーム



森崎 真知子 栗崎 博光 大倉 美子

プロフィール

AVALONは女性2人男性1人で構成されたヴォーカルグループです。全く違う個性を持つ3人がシャンソン、カンツォーネ、アメリカンポップス、オールディーズ、日本のポップス、ハワイアン等を唄い、大人の方から若い方までお楽しみ頂けるショーを繰り広げます。

- 会 費 …………… 4,000円 (2000年以降の卒業生2,000円)

発行——尚和会 発行責任者 田中 渡 編集責任者 大畠 光昭



二期目を迎えて

尚和会会長

田中 渡

輝ける皐月おおぞらに光る大地、新緑の若葉がよりいっそう美しい頃となりました。平素は尚和会活動に格別のご協力を賜り篤くお礼申しあげます。

さて、このたび再び会長の大役を仰せつかり拝命いたしました。その重責に

あらためて身の引き締まる思いをしております。微力ながら努めさせてもらいますとともに、皆様方の絶大なご支援とご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

尚和会の事業として、昨年度は会報を卒業五年毎の各期の方々に無料送付しま

した。同期会助成金と併せて広く有効活用され好評をいただいております。その結果、年会費及び協力金払い込み者数も七百人以上増加しました。皆様方の篤いご支援に深く感謝いたします。

また母校の特別教室に空調設備を母校PTAと同額負担で寄贈いたしました。在校生諸君の夏季補習授業の効率を高め、今春は関関

阪府より出された定時制再編整備計画で活発な部活動や自治会活動が本校の大きな特色に挙げられています。



桜塚高校の近況

桜塚高校校長

長瀬 尚

尚和会会員の皆様におかれましては各界で益々活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は桜塚高等学校の教育活動に何かとお力添えいただき誠にありがとうございます。去る二月二十七日、全日制第五六回、定時制第五四回卒業証書授与式が挙行され、全日制三五三名、定時制五四名、計四〇七名が新たに尚和会会員としてお仲間に加えていただくことになりました。

よくしくお願ひします。さて、母校の近況ですが、会員の皆様が培ってこられた伝統である、知的好奇心

が旺盛で進んで課題を見つけ自主的自律的に協働する気風は健在です。例えば体育祭は華やかでありながら力強く統制も取れたパフォーマンスが好評で、保護者や地域の人々も楽しみにしています。本年度は六月十日(木)の予定です。

部活動も好調です。全日制では陸上競技部が、定時制ではバドミントン部が近畿大会と全国大会への出場を果たしました。ほかのクラブも全日制では八〇%以上の生徒が加入し、体育系文科系とも非常に活発です。定時制ではこのたび大

同立は言うにおよばず国立大学への進学者が大幅に増加したことはたいへん喜ばしく思います。

今後の課題としては、尚和会の活性化にむけ特に若い世代の人々に、尚和会に参画しやすい企画を検討するとともに、その若さや情熱を尚和会に注がれることを祈ります。

尚和会と母校の発展にむけ皆様方のさらなるご支援とご鞭撻をお願ひ申しあげます。

本年度特に顕著なのは進路実績の大躍進です。本学入試では近年百名強で推移してきたいわゆる『関関同立』のべ合格者数を一挙に百八十名以上に増加させました。国公立大学合格者もかなり期待できそうです。府立高校のなかの進学成績上位校としての存在感がいつそう高まってまいります。

た、専門学校進学者や就職者も数的に多くはありませんがそれぞれに目的意識を持った着実な進路実現を果しました。

昨年尚和会がPTAと共に寄付してくださった視聴覚教室のエアコン設備は全日制定時制共大いに活用し

十七年度からの定時制課程

桜塚高校定時制教頭

森尾 俊三

尚和会の皆様には、平素から定時制の教育活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

平成十七年度から定時制の課程が、新たに「単位制普通科」として、再配置されることになりました。平成十五年十一月二十五日に「府立高等学校特色づくり・再編整備計画(全体計画)」及び「実施対象校」が大阪府教育委員会から発表されたところです。

その中で「夜間定時制の課程は、昼間に働きなながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。」さらに、「多様な生徒の就学を援助するため、単位制・二期制を導入し、多様な教育課程を編成する。：等」とあります。

本校では、この方針を受け、次のような特色を打ち出し、さらに詳細な内容を検討しています。

・生徒と教職員とのコミュニケーションを重視し授業はもとより、自治会活動、部活動等学校生活全体を通じて、生徒一人ひとりに指導の行き届いたアットホー

ムな学校を作る。
・様々な学習歴や興味・関心に対応した学校設定科目を含む選択科目を設置するとともに、実技・実習や体験学習を積極的に取り入れ、わかりやすい授業を工夫する。

・生徒が興味・関心に応じて系統的、発展的に学べるよう、体育・芸術、情報、教養等の類型の設置を検討する。

・学習の基礎・基本においては、チームティーチング、習熟度別授業などきめ細かい対応を行う。

・生徒の学びの機会を広げ就学を支援するために始業時刻前の授業(ゼロ時間目の授業)に取り組み。

・技能審査の単位認定や実務代替等の柔軟な単位認定制度を活用し、生徒の修学支援を図る。

・職業ガイダンスや総合的な学習の時間、特別活動を通じて、望ましい勤労観・職業観を育成し、卒業後の職業生活の充実を図る。

・様々な生徒の実態に対応して、生徒の学校生活、学習活動、心身の健康等のサポート体制を充実させるため、ガイダンスやカウンセリング機能の充実を図る。

以上のように、定時制に学ぶ生徒へのより良い教育環境・教育体制作りを目指して、教職員一同さらに取り組んでまいりたいと思っております。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

卒業式の答辞で、代表の



山本雄助君が次のように述べています。「この学校にしかない、人として大切な物が、たくさんあります。定時制ということで、仕事、アルバイトもでき、夜校の特徴である活発なクラブ活動と、自分自身を成長させる様々な経験が、この夜校ではできます。今回卒業する僕たちは皆、夜校に来て良かったと感じています。」

本校定時制を卒業していくことを誇りに思う卒業生をご覧になって、感動されたのではないのでしょうか。

この四月に四年制課程の男子三十三名、女子十二名、三年生定通併修課程男子四名、女子五名、合計五十四名が尚和会の会員に加えていただくことになりました。今後ともよろしくお願いたします。

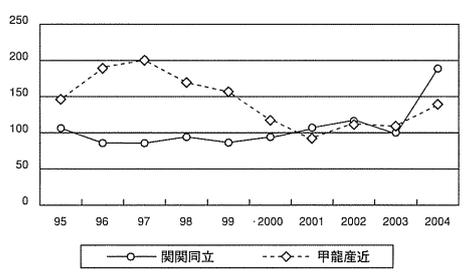
◆学校だより◆

進路状況報告

進路指導部長 熊野 純

本校卒業生の進路は大きく変化しつつあります。その変化を簡単に申しますと「入れる大学から入りたい大学へ」ということになりました。現在、本校生の大半は四年制大学への進学を希望しておりますが、その進学先大学に変化がおきつつあるのです。

関関同立・甲龍産近大 合格者数



このグラフは、過去十年間の関関同立大合格者数と甲龍産近大合格者数を示したものです。グラフに示されている通り、数年前から両者の数がほぼ同数となり、今春の入試ではついに関関同立大合格者数が甲龍産近大合格者数を大きく上回るようになりました。ほんの数年前までは、関関同立大や国公立大学を志望する生徒は少数派であったのですが、現在では半数以上の生徒が関関同立大、或いは国公立大学を受験すると

いう状況になっております。こうした流れの中で、今春の大学受験では国公立大学、関関同立大ともに、過去十年間で最多の合格者を出すことができました。

こうした難関大学を目指そうという生徒が増加してきた背景には、大学で将来に役立つ実力をしっかりと身につけたい、という生徒達の大学教育に対する期待があるものと思われま

す。このグラフは、過去十年間の関関同立大合格者数と甲龍産近大合格者数を示したものです。グラフに示されている通り、数年前から両者の数がほぼ同数となり、今春の入試ではついに関関同立大合格者数が甲龍産近大合格者数を大きく上回るようになりました。ほんの数年前までは、関関同立大や国公立大学を志望する生徒は少数派であったのですが、現在では半数以上の生徒が関関同立大、或いは国公立大学を受験すると

三年間楽しかった

第 孚年主任 高橋 俊行

今までの担任の中でこれ程充実していた三年間はなかったです。三回の遠足もしっかり覚えてるし、体育祭も、文化祭も……。生徒達と一緒にいろいろな会話ができたし、本当に楽しかったのです。体育館補修の為、合格者説明会は豊中市民会館で行い九クラスがスタートしました。それから三年が経ち、現在に到っています。五六期生は一日、一日たくましく成長して十八才となり、この三年の月日の重さを感じます。振り返って書くとなると、シンガポール修学旅行、三年生の体育祭、そして自分のクラスはミュージカルをやった文化祭。

今となつてはテロとSARSの間をうまく行けたと思うシンガポールです。セントーサ島、マリーライオン、ナイトサファリ、現地学生との交流会、想い出いっぱいです。(ホテルが綺麗でした) 体育祭、みんな真剣で、輝いていた。自分にもこんな時があったのかな?と思うぐらい、みんな違っていた。団長お疲れさん。文化祭、自分のクラスのミュージカル、できるのかな?と思うスタートでしたが、全員が役割を果たし無事終了。クラスのまとま

りを感じた日々でした。そして卒業……。淋しくなるというのが実感です。これを書いている今は卒業式前です。どんな卒業式になるのか楽しみです。五六期生のみんな本当にありがとう。充実した三年間でした。

北緯二十四度の楽園で ずばらしい体験

第 孚年主任 荒西 克招

五十七期生の修学旅行は、ハワイやマイアミとほぼ同緯度上にある沖縄・八重山諸島で体験学習を行うことでした。はじめ生徒の中には十二月に沖縄で何をするのか疑問の声もありましたが、百聞は一見に如かずの諭え通り、十二月十四日から十七日、天候にも恵まれ、事後のアンケートでも大変満足度の高い旅行となりました。

拠点となった石垣島、街には赤や黄色の花があふれ、二連泊した日航八重山ホテルも落ち着いてよかったですと思います。(棧橋まで十五分程度も街の散策として適当な距離で、生徒たちはコンビニで夜の食料を調達したりしていました。)

大阪から来た私たちが驚かせたのは、何と言っても、あの透明度が高く、濃淡様々に青緑に輝く水と白い砂、リーフに縁取られた珊

瑚礁の海でした。グラスボートでのぞくと色とりどり、形もさまざまなサンゴや「二モ」(かくれくまのみなどの熱帯魚(ウミヘビを見た生徒もいた。))が迎えてくれました。こうした海でダイビングやシュノーケルをしたり、マングローブの川をカヌーや遊覧船で眺めたり、水牛車に乗ったり、サイクリングしたりと楽しみました。

赤瓦の家々が並ぶ竹富島(民家の他には警察も病院もなく、小学校と中学が一緒になった学校と郵便局、デジタルセンターぐらいしかない。)ではずばらしい海を前に、無人の遠浅の磯辺、プライベートビーチで波と戯れたり、郵便局から大阪の自分宛にはがきを書いたりしてのんびりと時間を過ごすことができました。

生徒たちのアンケートを呼んでみると自然のすばらしさ、守ることの重要さがよく分かったなどと書いている人も多数あり、私自身も童心に返って楽しめるいい旅でした。

進路参考資料

国公立大	人数	主な私立大	人数
大阪市立大	5	関西大	69
大阪教育大	5	関学大	42
神戸大	1	同志社大	28
兵庫県立大	2	立命館大	25
神戸市立外大	1	甲南大	37
京都教育大	1	龍谷大	38
京都工芸繊維大	1	京都産大	15
京都市立芸大	1	近畿大	49
滋賀県立大	1	京都女子大	2
和歌山大	2	同志社女子大	4
三重大	2	神戸女学院大	7
高知県立芸大	1	武庫川女子大	17
東京都立大	1	京都外国語大	6
信州大	1	関西外国語大	13
富山大	1	大阪経済大	7
秋田県立国際教養大	1	大阪工業大	14
徳島大	2	佛教大	6
広島県立大	1	桃山学院大	9
下関市立大	1	追手門学院大	13
福岡県立大	1		
鹿児島大	1		
国公立大学合計	33		



■ 母校 クラブだより ■

野球部

顧問 和田 充司

野球部ではここ数年、二月に「甲子園マラソン大会」と銘打つイベントを実施しています。試合もなく、単調になりがちな冬の練習期間のアクセントとして、始めた行事ですが、実際の甲子園球場とスタンドをみんなで見上げながら、今年の「思い」を確めた後武庫川河川敷に移動して、約十キロを競走。終了後、マネージャーの作った暖かい汁物をみんなまでよばれる、という内容です。

今年はその際、望外の嬉しいハプニングがありました。球場前に集合した後球場の中へ入れてもらえたのです。詳しいいきさつはさておき、「本当にいいんですか」という思いのままネット裏スタンドから、一塁ベンチの中まで案内していただきました。部員一同感激の余り、言葉もあまり出ず、はるかかあなたにそびえる（ように実際見える）スコアボードをながめ立ちつくしていました。私自身にとっても小学生の頃以來

あこがれ続ける「聖地」の様な場所であり、顔には出ませんが、心の中は震えていました。

後で、部員に書かせている「野球ノート」を見ると多くの者がこの時のことに触れていました。一人はこう書いていました。「甲子園球場に入れて本当に感動した。が、ちよっぴり悔しくもあった。なぜ悔しいかというところ、今回は「入れてもらった」からだ。今度来る時は堂々と、選手入場口から入りたい。」

今回、それぞれが抱いた「思い」を一つにして、春夏の大会に臨みたいと思っています。御声援のほど、よろしくお願いします。

ラグビー部

顧問 渡辺 宗治郎

今年十六名の三年生が卒業するとあって、部存続の危機に直面した。しかし二年生五名、一年生十四名と加わって生き残ることができた。新チーム初の公式戦である近畿大会府予選は一月に開幕し、見事二回戦に進むことができた。相手チームの棄権による不戦勝利であったが、試合当日に十五名が揃う事の難しさを物語った結果での初勝利であった。

我々の第一目標である公式戦フルラグビー（十五人制）の部出場の達成である。寡黙なキャプテン安田と陽気な一年生部員たちが織りなす雰囲気は先がつかめないものの限らない成長の可能性を秘めている。

フィットネス、スキル、スピリッツといわゆる3Sの向上を図るにはあまりにも時間的環境が不足している。しかし部員たちの持つ目標と練習意欲、それに顧問が描いているチーム力到達目標が合致すればスムーズな部活動が展開されるはずである。今年の一年生部員は週三日の朝練習を自主的に実施し、しかも全員が顔を揃える熱の入れようである。ひよつとして大それた事を考えているのではないだろうか。新しい伝統が生まれさらにチームの第二の目標が明確になりそうである。

陸上部

マネージャー 久次米 彩子

陸上部は現在男子十七名、女子五名、マネージャー三名「笑顔で練習」をモットーに毎日放課後活動しています。昨年の六月には三年生の三名の選手が地区予選を突破し、近畿大会に出場しました。近畿大会で

は、それぞれが力を出し切り、結果熊内幸啓君が三段跳びで全国インターハイへの出場を果たしました。全国から勝ち残ってきた強豪達の雰囲気は圧倒され思うように実力が発揮できませんでした。熊内君のインターハイ出場を契機として、後輩達には先輩に続くという目標ができました。

三年生の引退後、十一月、一月の駅伝で、長距離のメンバーが一本のタスキを最後までつなぎ、冬にはシーズンオフとなる短距離は、筋トレ中心のメニューで体力づくりに励み、精一杯頑張っています。土曜にはトレーナーの方を招き、細かいトレーニング方法も教えていただきました。

四月からシーズンに入り記録会、インターハイ地区予選、中央大会、総体など年間を通じて多くの試合が始まります。それぞれが自分自身の目標を高く持ち、日々努力していきたいと思っています。

男子バレー部

顧問 古橋 美知子

五十六期生から贈られた花束から漂よう素敵な香りに包まれながら、この原稿を書いておきます。

このチームは、背の高い生徒が集まり、スパイクやブロック力が持ち味でしたが、怪我に付き纏われ、なかなか思うような練習ができなままの引退となってしまいました。

エースアタッカーは、主将の南君、セッターは、高島君と宮本君、セッターには山田君、リベロは福本君と土井君、控えにサウスポールの宮津君・オールラウンドの樋口君と檜垣君。

そして、マネージャーの與田さんと飯田さんには本当によく働いてもらいました。ありがとうございます。

次の五十七期生のチームは、粘りのあるチームで一部昇格を狙いたいと思っております。主将辻村君を中心に練習に励んでおります。

短時間で効率良くと考えますと、先輩方の力が必要となります。現役と共に汗を流し、コーチをして頂くのと有り難いのですが、相変らず、サイドの狭い体育館ですが、思い出の詰まったあのコートに再び立ちまわってみたいですね。お待ち致しております。

女子バレー部

顧問 津田 康裕

五十六期生の四月の部別

は旭高校・春日丘高校・枚方高校の三チームリーグでした。三試合ともボールを落とすまいと必死にがんばりましたが、残念ながら○勝三敗に終わりました。

五月の豊能大会は、いつも合同合宿をやっている刀根山高校と対戦。お互いに手の内を知りつくして大接戦になりましたが、最後は攻撃力に勝る相手に惜敗しました。

六月のインターハイ予選は、近畿大会の予選も兼ねていて、公立高校の生徒が最大目標にしている大会です。高校入学以來、この大会での勝利を目指して、暑い夏場の体育練習や、冷たい風が吹く中でのロードワークに励んできました。そして、三年生にとっては「引退試合」にもなります。

三年間の想い出と練習成果を発表する場で、住吉高校との二回戦は最後まで生徒たちの気力が持続した試合でした。二セットとも紙一重のところ相手セットを奪われ、五十六期生の試合は終わりました。試合後の生徒たちは、力を出しつくした充実感が顔に浮かんでいました。

先輩たちからバトンを引き継いだ五十七期生は、「元氣あふれたチーム」を目指してスタートしました。体育館でもグラウンドで

も存在感を示すことが生徒たちの課題でしたが、練習試合の相手校指導者から「桜塚の生徒はとつても元気ではきはきしていますね」という言葉を再三かけて頂きました。普通の公立高校のチームに対しての最大の賞賛の言葉だと思えます。

その五十七期生は八月に公式戦を二つ戦いました。大阪総体予選では刀根山高校に敗れましたが、二週間後の府立高校大会では、地区予選で二勝一敗の成績を残して中央大会へ進出。

中央大会は強豪泉北高校と対戦。普通の高校生ならその名に気後れするところですが、試合終了まで敢闘精神でがんばり抜きました。内容はワンサイドであつてもすがすがしさが残る試合だつたと思えます。

十一月の部別は三部で戦う。優勝した池島高校や二位の大阪市立東商業高校ともゲーム内容では勝つていたが、細部の詰めが甘く、勝利を逃がしました。

この五十七期生と五十八期生はいろいろな面でよくがんばっています。練習時間の少なさは桜塚高校独特のものですが、生徒たちは練習の質を大事にするだけでなく、少しでも時間があればボールに触れようとしています。その努力が試合

にまだ出ていないところが生徒たちにとって辛いとは思いますが、きっとその努力が報われる日が近いうちに来ると確信しています。

この一月に対戦した大阪女子短大付(全国レベルの力がある)とラリーグが続いたことは、新チーム発足以来の努力が実を結びつつあることを示しています。今後楽しみな集団です。

女子バスケットボール部

顧問 高橋 俊行

先日の新人大会では接戦を勝ち上がり、北地区三位となり、平成九年から続いている中央大会出場を果たしました。今回は桜塚六期生の大先輩方の応援も頂き桜塚の重みを感じた公式戦でした。今回のチームは豊中の大会も優勝して期待できそうなのですが、女子のボールが七号球から六号球に変わりそれに対応できるかがポイントとなります。桜塚の女バスの強さは、卒業生“だと思えます。合宿だけでなく、休日の練習、練習試合、公式戦など誰かが来てくれて後輩と一緒に練習してくれています。それが桜塚の女バスを支えてくれている大きな力だと信じています。卒業生のみならず、ありがとうございます！

吹奏楽部

顧問 河村 光子

二〇〇四年 五月二日 私達は第十五回目の定期演奏会を迎えます。今、部員達は選曲を終え楽譜を揃えて練習を始めています。自分達の演奏力も考えながらお客様に楽しんで頂けるステージ構成をという曲選びはなかなか難しいのですが、何度もミーティングを重ねながら決めていきます。一方で演奏会には会場費、楽器運送費等多額の費用が必要となるので、練習の終わった放課後は協賛金をお願いに歩きます。新カリキュラムで、自ら課題を見つけ自ら解決する総合学習を“といわれていますが、彼らはまさにこのことを毎日の活動の中で実践しています。「こんなにもいろいろなことを自分達でやらなければいけないの？」という思いはそれが達成できた時には大きな喜びとなって返ってきます。

四月に入ってくる新一年生部員は先輩に楽器の割り振りをしてもらい基礎練習を始めますが、定演当日は裏方の仕事を引き受けま

ます。三年生はステージもよいよ最後となると涙も止まらず、私達も感動に浸る

一瞬です。

夏合宿のあとはコンクール、秋には豊中市、第一学区、大阪府と音楽会が続き、冬はアンサンブルコンテストと休む暇もない一年間ですが、練習メニューもすべて生徒達で相談して決めていく自主運営の伝統は胸を

はつて良いと思います。市街地にある学校ゆえ、少し外で音を出したりするとすぐに苦情が来たりしますが、工夫しながら練習しています。

桜塚高校吹奏楽部の演奏はいつものびのびしています。本当に音楽が大好きな生徒達ばかりです。悩みといえば古くなってきた楽器を買い替えたいのにお金がないということくらいでしょうか。楽器は少しほろですが彼らは心に響く音を鳴らしてくれま

美術部

顧問 越智 秀樹

二〇〇三年度の美術部員は、三学年合わせて十二名(男子三、女子九)で小所帯ながら意欲的な活動を行っています。府レベルの展覧会へは、毎年、夏の「高校展」と冬の「芸文祭展(コンクール展)」の二つに出

品しています。昨夏の高校展は三年樫永君が優秀賞(この作品は十一月大阪で行われた高等学校美術工芸教育研究会の全国大会の会場に選展示されました)、二年黒田君と一年令官君が奨励賞を受賞し、他の部員も全員油絵・デザインの大作出品して頑張りました。当・落のある冬の芸文祭展では、油絵は六点中三点入選しましたが、デザインは残念ながら二点ともあと一步のところで入選を逃しました(デザインの入選率は30%未満と最も厳しい)。この結果はまずまずといえますが、制作に取り掛かるのが遅れた分完成度の浅さが出たかと思われま

す。ほかに、箕面市民センターで行われる第一学区の高校展(今年度は二月)にも毎年出品しています。校内では、文化祭で、作品展示のほか十周年ぶりにバザーに参加して、シルクスクリン印刷の十種類のポスターカードを作り三〇〇枚を完売するなど大いに盛り上がりました。また、他に特筆すべき活動としては、岡町桜塚商店街から依頼のあった店のシャッターのペイント制作があります。三月中に完成予定です。こうしたバザーやシャッターペイントなどの新しい

活動ができたのは、昨年度中心になって活動した五六期生の意欲的な取組みに刺激されたのと、部長の土谷さんのリーダーシップと部員のチームワークが例年以上に良かったところによるものでしょうか、顧問としても今後に繋がるものと頼もしさを感じているところです。近年、新入生の関心が運動系クラブに偏っている中で「文科系クラブここにあり」といったところが示せればと期待しています。

新しいといえば、美術部OGのこの十年の高校展等での受賞作品(学校に残してくれている)を昨年九月に「岡町アートランド」で展示させてもらう機会がありました。急な話で作者の皆さんにはお知らせ出来ませんでした。急な話で作者の皆さんにはお知らせ出来ませんでした。急な話で作者の皆さんにはお知らせ出来ませんでした。急な話で作者の皆さんにはお知らせ出来ませんでした。



各 期 連 絡 先

期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話
---	-----	-----	---	-----	-----	---	-----	-----	---	-----	-----

WEB 版非公開

平成16年度 評議員会及び理事会予定表

評議員会

- 第1回 16年 9月 4日 (土) 会費制 会場未定
- 第2回 17年 3月26日 (土) 尚和会議室

理事会

- 第1回 16年 5月 8日 (土) 尚和会議室
- 第2回 9月 4日 (土) 会費制 会場未定
- 第3回 11月 6日 (土) 尚和会議室
- 第4回 17年 1月16日 (日) 新年理事会
会費制 会場未定
- 第5回 3月19日 (土) 尚和会議室

- | | | |
|-------|------|-----------------|
| 東京支部長 | 高七期 | 井上 眞一 |
| 会計 | 高二二期 | 吉田 友子 |
| 會計監査 | 高一六期 | 秋山日東志 |
| | 高三三期 | 中岸 澄江 |
| | 高一五期 | 大島 光昭
(広報担当) |
| | 高一三期 | 細川 和彦
(財務担当) |
| | 高一二期 | 吉田 和久
(総務担当) |
| 副会長 | 高三期 | 中村千穂子
(行事担当) |
| 会長 | 高一二期 | 田中 渡 |
| | 定七期 | 田邊 昭夫 |
| | 高一一期 | 吉田 和久 |

尚和会平成十六年度 役員紹介

全日制課程

三木 万野 友田 転... 一色 森田 越智 退職

WEB 版非公開

山本 中村 着 西 三原 名里 上山 毛利 古橋

WEB 版非公開

教職員人事異動 (平成十六年度)

桂 工藤 退職 定時制課程 中島 英樹 (実習助手理科 四高校より) 中村まじか (講師 理科 台高校より) 鎌田 順子 (教諭 英語 根山高校より) 尾島 秀子 (教諭 保健体育 用) 河野 太 (教諭 数学) 熊谷 知子 (教諭 数学 川東高校より)

WEB 版非公開

伊藤 片山 津村 長谷川 楠井 着任 有田 三村 小川 内藤

WEB 版非公開



平成十五年度 新年理事会について
 行事担当副会長 岡島 勇

平成十六年一月十八日(日)に、伊丹シティーホテルにおいて、新年理事会が開催されました。当日五十三名の方々のご出席を賜り、大変ご多忙中の折、厚くお礼申し上げます。

さて、理事会、評議員会においても業務執行については、まず学校当局を始め、会員の皆様のご協力なくして進めることができませんので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。さて、今後の行事委員会の担当は次の事項です。

一、平成十六年度 新年理事会の開催
 二、平成十六年度 総会の開催

平成十六年五月十六日

尚和会 平成15年度決算報告・16年度予算

[収支決算] (自:平成15年4月1日 至:平成16年3月31日) (単位:円)

科目	予算	決算	差引過不足	備考	16年度予算
収入の部					
入会金	1,672,000	1,672,000	0	418名×4,000円(全354、定64)	1,628,000
年報年会費	1,200,000	1,703,000	503,000	1,703人	1,400,000
尚和会協力金	1,800,000	2,388,718	588,718	986人	1,800,000
広告収入	60,000	0	▲60,000		60,000
利息収入	1,595,000	1,870,053	275,053		200,000
雑収入	0	4,000	4,000	名簿販売1冊	0
計	6,327,000	7,637,771	1,310,771		5,088,000
支出の部					
事務費	100,000	63,897	36,103	事務用品、コピートナー他	100,000
振込手数料	100,000	108,820	▲8,820		110,000
通信・交通費	300,000	255,491	44,509	会議案内等の葉書印刷、宛名シール	350,000
会合費	300,000	272,242	27,758	理事会及び各委員会会合費	300,000
慶弔費	100,000	47,010	52,990	学校行事祝儀他	100,000
会館維持費	30,000	3,864	26,136	ほうき、急須	50,000
卒業生記念品代	50,000	80,000	▲30,000	卒業証書入れ	100,000
会報発行費	2,000,000	1,929,304	70,696	11,000部、郵送8,310件	2,200,000
総会費	700,000	605,692	94,308	食事、アトラクション、雑費	700,000
東京支部援助金	150,000	150,000	0		150,000
同期会開催助成金	400,000	500,000	▲100,000	50,000×10件	500,000
予備費	1,700,000	1,322,500	377,500	特別教室空調設備(50%分担)他	300,000
計	5,930,000	5,338,820	591,180		4,960,000
1. 差引当期収支	397,000	2,298,951	1,901,951		128,000
2. 前期繰越金	1,291,130	1,291,130			1,590,081
3. (1+2)合計	1,688,130	3,590,081			1,718,081
4. 尚和会積立金等繰入		2,000,000			
5. 尚和会積立金等取崩		0			
6. 次期繰越金		1,590,081			

[貸借対照表] (平成16年3月31日現在) (単位:円)

借方		貸方	
現金	221,052	預り金	1,640,000
普通預金	3,448,301	尚和会積立金	14,000,000
定期預金	12,610,741	尚和会事業積立金	8,200,000
定額貯金	9,032,000	次期繰越金	1,590,081
未収入金	117,987		
合計	25,430,081	合計	25,430,081

以上、報告いたします。

平成15年3月31日

財務担当副会長(高13期) 細川 和彦
 会計(高12期) 久瀬 恭子
 会計(高12期) 吉田 友子

監査の結果、誤りのないことを報告します。

平成15年3月31日

会計監査(高14期) 吉田裕理子
 会計監査(高16期) 秋山日東志

て進めることができませぬので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。さて、今後の行事委員会の担当は次の事項です。

一、平成十六年度 新年理事会の開催
 二、平成十六年度 総会の開催

平成十六年五月十六日

日(日)午前十一時三十分より(於 ホテル アイボリー) ところで日本が生んだ巨人 安岡正篤先生(明治三十一年大阪府生まれ、昭和五十八年十二月逝去)が述べられている中で、生命の本質とは、他の生命を手助けするところにある。と述

べられています。「どの生命も他の生命の食物となり、その生命の血となり肉となつて その生命を支えているのだから、人間も他の人々のお役に立つてこそ生きた甲斐がある。」と言われている。私もそれに深く同感します。又「王道とは、自然に則つて無理の

無い生活をする事、無理を抑制せず、情味を以つて事を成すこと」「王道とは民衆の欲望を否定せず、増長せしめず、自然に即して、人間の福祉を増加向上せしめることである。」とも仰っています。

尚和会では、卒業生数三万二千五百名余りとなり、

卒業年次は異なるでしょうが、又卒業後の進路など異なるでしょうが、校友の一員として各界でご活躍の事と存じます。お互いに母校のことを語り合い、母校桜塚高校を「ふるさと」として思い出して下さい。来るべき総会にお会い出来る事を楽しみにして居ります。

尚和会通信

広報担当副会長 大島 光昭

一、尚和会会報の無料配布

(卒業後五年毎)

無料配布対象期

その期が、卒業後五年経過ごとに、住所判明者を対象として全員に送付する。

目的・理由

会報有料制は、約二万人にも及ぶ無料配布の結果財

政が逼迫し、やむなく採られたものであります。これを機に多くの会員の方が危機を認識され、それ以降会費・協力が増加し毎年プラス収支に転じることができました。

一方、会費納入を一度忘れられるとそれ以降会報が發送されなく、尚和会の先細りの懸念が生じはじめました。これを防ぐ手段の一つとして、財政の許す範囲

といたし、条件付きで昨年度より実施中です(効果が無ければ、見直すこととなります)。

お願い
会報有料制は引き続き継続されますので、無料配布に当たる期の方も、会費・協力は引き続き宜しくお願いいたします。

また、ちょうど各期が五周年単位に当たる年の五月

尚和会会報有料制について

財務担当副会長 細川 和彦

今お読みの尚和会会報は有料制です。

●名称 会報年会費

●年会費 1,000円 (同封の払込用紙にてお振込み下さい)
払込用紙紛失の方は 口座番号00930-3-31860
加入者名「尚和会」宛お願いします。

●会報發送対象者

卒業年	卒業期	会報發送期間
平成16年	高56期 定54期	平成16年から5年間平成20年迄
平成15年	高55期 定53期	平成15年から5年間平成19年迄
平成14年	高54期 定52期	平成14年から5年間平成18年迄
平成13年	高53期 定51期	平成13年から5年間平成17年迄
平成12年	高52期 定50期	平成16年のみ
平成11年以前	高51期 定49期以前	毎会計年度末(3月31日)を年会費納入期限とし、会費納入者に対し、次年度のみ会報を發送。

に、その期に対し会報が無料で送付されますので、「同期会開催予告」として二月末までに会報の原稿を寄せていただければと思います。

二、「同期会開催支援奨励助成金制度」

一、目的
新世紀に向けて、新生尚和会を構築し、創造的な事業活動を展開するために、同期会の活性化に取り組み必要がある。その意味で、同期会の開催を支援、奨励する目的の制度である。

二、助成金交付対象期

尚和会会員が同期会を計画、開催実施しようとするもので、その同期会が卒業五周年以降五周年単位で開催される期であること。なお、卒業後最初の同期会が右記の周年でなくても助成金を交付する。

三、助成金の額
五〇、〇〇〇円とする。

四、申請の手続き
開催する同期会の代表幹事が書面(同期会助成金交付申請書)にて、尚和会会長宛に同期会開催一ヶ月前迄に提出又は郵送する。

五、助成金の交付

「同期会助成金交付申請書」受理後速やかに同期会開催迄に支払う。
平成十三年九月一日より

六、実施日

なお、同期会に対する助成は同じ期が同じ周年時期に複数の場所で開催されても、尚和会からの助成金交付は、その期に対して一回限りです。また、クラス単位での開催も対象外です。

三、クラブ活動に

報奨金制度発足
朗報!!

クラブ活動に顕著な成績を残したクラブに、活動費の一部を助成する制度です。助成対象は府下大会にて優勝またはそれに準ずるものとなります。過去には野球部や定時制のサッカー部が記憶に新しいところで、在校生諸君の活発な活動を期待します。



尚和会の活動をホームページでみられます

桜塚高校のホームページの中で同窓会をクリックすると尚和会の活動報告がご覧いただけます。
桜塚高校のホームページの次のアドレスです。

www.osaka-c.ed.jp/sakurazuka/z/

	高女 1期~8期	併中 1期~2期	高 1期~55期	定 1期~53期	定通併修 1期~3期	旧職員	現職員	現職員 (定時制)	合計
会員数	2,061	229	25,423	4,078	22	673	39	22	32,547
物故者	325	18	567	80	0	133	0	0	1,123
住所不明者	223	31	5,292	1,944	2	165	0	0	7,657
住所判明者	1,513	180	19,564	2,054	20	375	39	22	23,767
判明率	89.2%	86.5%	79.2%	52.3%	90.9%	75.5%	100.0%	100.0%	76.5%

尚和会会員数 単位:人

同期会報告

豊女一期生会

日時：平成十五年六月十七日

場所：ホテル竹園芦屋

梅雨の最中、台風も近づいている予報に心配していましたが、天の女神も、私共に味方して下さって、まあまあのお天気で本当によかったです。芦屋駅に案内役として立つてもらったこともよかったですと思います。定刻・会場前玄関で記念撮影・遠方より来られた方を前列にして。この写真はお帰りの時にはお渡しできま



した。

コスモスの間の向い側の部屋使用の方から、拉致問題についての署名を乞われ、世界を結ぶ海の色、青いリボンを胸に会が始まりました。元気に出席できたことに感謝しつつ乾杯！例年のように越水さんが進行役になって、マイクが回りはじめ、自己紹介・近況と、思い出に華を咲かせました。

その間、矢野さんが健康体操の指導をして下さったり、名古屋から出席された西水さんから、昭和十三年一・二年合同学芸会のプログラムを持参下さり、独唱・ピアノ・英語暗誦・武道難刀型など、懐しい学校生活が蘇りました。最後は榎谷さんの堂々たる謡曲でしめくり、来年を約して笑顔で散会しました。(阿部・奥・岸本・吉村 桜)

幹事 瀬戸・多田・横川・武藤千代子記

豊中高女二期生会 卒業六十周年記念

日時：平成十五年四月十五日(火)

場所：ホテルグランヴィア 京都 今昔の間

出席者：四十七名

桜も散り始める四月半ば、ホテルのロビーは心地良い興奮で盛り上っていました。ぞくぞくと集って来る二期生の殆どが、案内の葉書を見る迄、六十年もの年月が過ぎたとは思っていませんでした。先にたつ懐しさを、そっと胸の名札で確かめ合うような出会いでしたが、テーブルを囲む頃には、長い年月、生き抜いた喜びを分かち合う気持が、今昔の間に満ちていました。



私達が、小さな古墳が点在する、見渡す限りの広い原っぱの新校舎に入ったのは、昭和十三年の春、日中戦争勃発の次の年でした、赤瓦の屋根の鐘樓では、大、中、小、三つの鐘が澄んだ音色を空に吸わせ、雲雀の聲が雲の中に消えるような長閑かな景色に囲まれ、勉強はさておき、春秋には古墳探索の散歩、冬には十キロマラソン、夏から秋には田植え等の農作業(作物は自給自足の形で、昼食に出ました)。先づ第一に身体を使って生きる事を奨けられた様な気がします。一方、大阪府主催の体育大会等には、上級生がいないので低学年でも、一期生か二期生の私達が出場、他校の高学年を相手に入賞したりしていました。こんな風で、余り物怖じせず、のびのびした気風が育っていた様です。生徒が幼いだけ先生方も若かったようですが、高学年になる頃には、イキのいい先生方を次々に戦場へ送り出さなければならぬ時代が来ていました。日中戦争が太平洋戦争へと拡大する中、昭和十八年の三月、私達は卒業の日を迎え、戦中、戦後、それからの六十年、それぞれの人生を生きて来ました。

卒業三十周年の会で、「あの時代の公立校としては異色だったのでは？」という疑問に渡部元先生が「当時の政府の教育方針に批判的で、とらわれない考え方を持った先生方が集まっていたから」と説明して下さいました。

六十周年の会場では、四十七名の一人一人が、それぞれの人生の歩みを、訥々と、しかし、しっかりと語りつづけていました。耳を傾けながら、私は、明朗、敬虔、奉仕、(当時の motto)は「前を見て、自分の足で人生を踏みしめて歩け」ということだったかなと、考えていました。それぞれが充分に、語るべきものを持っていましたから。

宿泊組は、少女時代にかえったように、夜おそくまで、話に華が咲きました。翌朝満ち足りた思いで帰路につきましました。

今回、恩師武井鏡一先生の計報に接し、又同級の野口恒子(峰松)さんのご逝去を知りました。心からお悔やみ申し上げます。幹事さんお手配誠に有難うございました。

高女二期生 報告係

高女四期生会

日時：平成十五年五月十二日

場所：平安神宮会館 迎賓殿

連日梅雨のはしりの様な天気つづきで心配しましたが雨も上り、新緑の平安神宮会館の迎賓殿で同期会を開催しました。

京都：この響きが皆様をお誘いしたのでしょうか：関東より五名前日より泊りがけで。四国からは二名：全員四十五名の出席で七十半ばとは思えぬ華やかな顔！願！

早速朱塗りの社殿をバックに記念写真をとりました。



た。卒業後初めて出席の方もあり、夫々自己紹介してセーラー姿の面影をなつかしみ、きびしい戦中の学生生活、戦後の子育てにも力強く生抜き、今のあふれる飽食時代に、ただただ驚くばかりの年代。とても頼もしく感じました。

有効期限切れの体にならない様、先づ脚、腰鍛えて。とのはげましに、二時間余りアツと云う間に過ぎました。

見事な、しだれ桜も散り急ぎ今は静かな神苑を拝観する方々、夫々に来年の神戸での再会を楽しみにお別れしました。

十一月に高山道子様が急逝されました。心からご冥福をお祈りいたします。

幹事
岡村 本田 松本 宮本
仙台 山田

高女五期生同窓会

日 時…平成十五年五月八日 (火)
場 所…奈良ホテル 金剛の間

出席者…五十八名
新緑の古都にご案内を出し、皆様との再会を楽しみにしていただきましたのに、なんということでしょう、その

日は大雨で明けました。その上雷まで鳴る有様、嵐にご案内はしなかったのに、お足元の悪い中皆様に来てくださるかしら、幹事六名ははらはらして待ちました。でも雨に濡れながら全員集まってくれました。ホテルの玄関前での記念撮影後開会。

最初に、亡くなられた恩師、級友を偲び黙祷を捧げました。この日集えたのは幸せなことだと喜ばねばならないでしょう。年を重ねたとはいえ、どこかに昔の面影を残している笑顔はそう語っているようでした。

会食は奈良名物の茶粥御膳、案外好評だったようでほっとしました。それぞれの近況、また欠席の友人の消息など語り合ううち、楽しい刻は本当に短く、話し



足りないまま閉会の時刻がきてしまいました。次回は豊中の方々に引き継ぎ、また元氣にお会いできるよう期待して散会。そのころには幸い雨も上がっていて、お帰りの道では奈良の緑を楽しんでいただけのことと思います。

幹事
井上 梶本 高橋 森岡
和氣 土田

「チエホフの名言」に促され

高四期 松田 祝三

昨年暮れの十二月八日(月曜)、高四期有志(別称昭和シングル会)は、梅田の新版急ホテルで忘年会を兼ねたパーティーを開きました。

七十を超えた人、なろうとする人一四十七名の初老の男女の集いではありませんが、スイングジャズを基調に絶妙のかけ合いでプロが演奏するピアノとヴァイオリンの洗練されたリズムに乗って微妙な活力と開放感が醸し出され、盛り上がるままに午後六時からの三時間が瞬く間に過ぎてゆきました。

青木政之君のハーモニカ演奏には、予期しなかった

だけに驚きました。そのテクニクはなかなかのもの、聞けば高校時代から知る人ぞ知る名手だったとのこと。才能のある人が結構いたんだなあ、と妙に感心させられました。宴酣ともなると高揚した気分からジャズヴァイオリニストの女性に気が入ったとツーショットを求める男性も複数いましたし、沢田掛子さんは突然見事なヨガのポーズを披露してくれました。鉢の老化が著しい私たちに想像し得ない柔軟さにこれまたビックリでした。

最初に松井健君が挨拶し、会の案内文が気に入ったと参加理由を述べてくれました。その前文は「チエホフは言った。男とつきあわない女性は色褪せる。女とつきあわない男性は馬鹿になる。」云々です。



「なるほど名言だ」と思えました。

高四期は、関西在住の有志が軸になってこのような会を年二回開催しています。夏のシーズンには「ハワイアンパーティー」を定期化し、いずれも四十名前後が天気に参加されますが、毎回新鮮な出合いを愉しむことができ、開催の意義も受け止めています。

平成十六年には同期全員が古希を迎えます。これを祝って催しが企画されるそうです。趣向はどうあれ、出合いの機会が増えることは嬉しいことです。是非みなさんご参加ください。

卒業五十周年記念 五期会

橋本 喜久子

五月二十五日、ヒルトン大阪に於いて卒業五十周年を祝う記念同期会を開催し

ました。百名を越す懐かしい顔に囲まれ、最後の校歌合唱まで、心とむ一刻を楽しみました。更にスカイラウンジでの二次会でも別れを惜しむ八十八名が、煌めく夜景を眼下に談笑終りなく、世話人一同嬉しい思いさせて頂きました。

花の便りが聞かれます今年、六月六日に女性が中心となり企画をしています。青春の思い出にエネルギーを発揮したいものです。

何が飛び出すかわかりませんが、どうぞご期待下さい。ぜひご出席を！

第十四期同期会

吉田 裕理子

平成十五年十月二十五日(土) 卒業四十周年と還暦を祝う同期会をホテルアイボリーにて開催いたしました。

前回リーガロイヤルホテルから四年振りとなりましたが、お天気にも恵まれ吉本清先生、井上まさ先生を来賓とし、東京や横浜、藤沢といった遠方からの参加者を含め七十名が集まりました。当日がお誕生日で正しく還暦という方や、ン十年振



**第十五期卒業四十周年
記念同期会**

大島 光昭

平成十五年九月二十七日（土）ホテルモントレ大阪にて、恩師四名、還暦前の同期生六十九名の出席で開催しました。卒業十八年で第一回目を開き今回が五回目でした。

蓮江久美子さんのヴァイオリン演奏、別所多嘉さんのピアノ伴奏による「アヴェ・マリア」の曲で十五名の物故者を追悼、黙祷し開宴。まだまだお元気な井上まさ先生のご挨拶のあと、高橋桂四郎先生、飯尾和義先生、中西昭次先生にも近況を含め、在学当時の想い出話を語って頂きました。乾杯は現豊中三中学校長の上田幸子さんが音頭をとり、食事歓談に入りました。

各テーブルでの話題は、五年前の同期会と違って、もっぱら男性はリストラ、早期退職・転職等の仕事関係が多く、女性も親の介護、孫の話、共通しているのはお互い健康のことでした。蓮江、別所さんの生演奏を聴き、高校三年生、校歌他数曲を全員で合唱し、次回五年後の同期会ほとんど年金生活者の集まりになるの



二十九期同窓会レポート

幹事 山澤 健二

昨年の十一月十六日、ホテルアイボリーで、二十七年の星霜を経て、初めての全日二十九期同窓会が開催されました。「同窓会実行委員会」が、桜の季節に蒔いた「友情の種」は、紅葉の季節に、見事な実を結びました。その実が、四半世紀を経て、瑞々しい香りを放ち続けていることに、出席者全てが驚きました。

久しぶりに同窓会を開かれた方は、経験済みでしょうが、高校生活を共にした仲間、無意識のうちに、精神の一部として共生しているようです。今回の同窓会は、立ち上げから事後処理まで、「パソコンを駆使した」という点で特記されると思います。この手法は私達より若い世代では、必ず活用できます。

まず名簿の穴埋めですが、二十七年という年月は余りにも長く、尚和会発行の名簿がなければ、作業は進まなかったでしょう。これをデータベースとして打ち込みました。それからはインターネットの広場を作り、名簿をアップし、掲示板で情報交換しました。もちろん電話や手紙も併用しながらの作業です。ここで準備万端と、案内状を発送したので、それにはメールアドレスの欄を添えました。大概の方が携帯電話かパソコンを使って、名簿を埋めながら、当日まで盛り上げていきました。今なおインターネットの広場は継続して、数十人の仲間が集い、毎日雑談しています。さて、当日の報告です。

小春日和の中、百十人の仲間と五人の先生が列席してくれました。我々の年代は単身赴任が多く、全国各地からの参加になりました。なにせ二十七年振りというので、緊張しながらの開会でしたが、ほんの数分で、昔のままの会話が蘇りました。今でも不思議でありません。



**定時制第七期卒業
同期会「桜灯会」
を開催して**

居附 ふじ子

木枯らしの吹く寒い一日でしたが、三年ぶりに第十一回「桜灯会」をホテル「アイボリー」で開催いたしました。恩師の寺本先生を迎えて、出席者二十名という少し寂しい同期会となりましたが、それでも久しぶりに再会できた喜びに、次第に声も大きくなり、笑い声や、席を立つ人で賑やかな雰囲気となりました。身振り手振りで話される恩師の挨拶に定時制高校時代の授業を回想したり、一部の男性の悪ふざけに爆笑する場面もあつたりでとても楽しい一時でした。出席者一人ひとりの近況報告では、誰もが、最後の生活設計をしっかりと立てているのに感心したり、何人

ました。きっと生涯の思い出になるはずですよ。最後になりましたが、五万円の助成金は大いに役立ちました。今回の成功の一因だと思っています。貴重な会費の一部を使わせて頂きました。感謝しております。



に過ぎ、二年後の再会を約束して散会しました。

(開催日 二〇〇三年十一月二十三日)

昭和三十三年卒 同期会の報告

定八期 田邊 昭夫

昨年十一月二十三日(日)ホテルアイボリーにて実施しました昭和三十三年卒同期会「久しぶりつどい」についてご報告致します。

今は現在も社会と何らかの接点を持ちつつ今なお働きつづけていることを知り、私たちの同期生はこの年齢になっても勤勉で、堅実な人生感を持って歩んでいることをたのしく思います。出席できなかった他の人達とも是非再会したいものです。

今では、私達が高校生であった頃の社会情勢とは、すっかり様変わりしてしまいました。「イラク戦争」の暗い世界情勢や、身近で次々に起こり続ける様々な危険に、私達の子どもや孫達、そして現在の若者は未来に向けて何を目標に努力し、生きて行けばよいのかと、私自身不安を抱えています。

楽しい時間もまたたくま



当日は小春日和で暖かく、二年前の二十五名に対して今回三十名の出席で、先ず記念写真を撮りスタートしました。恩師樋口先生、岩本先生からご挨拶を頂いた後、小川さんの乾杯の音頭で、のどを潤しました。今回は東の埼玉県から田辺(水谷)さん、南の宮崎県から甲斐(飯干)さんが遠

方からの出席の中、各テーブルでご歓談いただき、舞台では西本さんの手品三昧の余興で拍手が続き、そのあとは五年ぶり、五年以上の方々からの近況報告に耳を傾け、親交を深め、楽しいひとときを過ごし二年後の再会を約束しました。

尚、当日出席出来なかった方々に当日撮影しました記念写真(写真配列順の氏名表添付)と同期会開催報告を送らせていただきました。

小川尚子さんを偲ぶ

高校四期 北野 定子

十五年六月二十五日に小川尚子さんが逝去されました。皆様もご存知のように、尚和会と四期生のお世話を四十年献身的に尽してこられました。その間、尚和会

総務担当副会長として十二年間、理事会を始め役員OB会のお世話や名簿の作成、毎年の名簿の整理、更

年記念祝賀会が終わり、後片付けも済んでやれやれと思った八月、突然入院され、手術を受けられて、一時は回復されましたが、長い療養生活の後、皆様にお知らせのないまま亡くなられました。私も長いお付き合いを思いこれからも大切にしていこうねと言っていた矢

先にお別れの言葉もなく逝ってしまわれて唖然としましたが、今は晩歌を捧げた心境です。思えば祝賀会が盛大に無事終わり、にこやかに締め挨拶をされて

彼女にとっては最後の花道になったのではないかと思っております。又、地域社会にも貢献されたりで最後まで自分の人生を貫かれた生涯にご自身満足されているのではないかと思います。なお、通夜、葬儀には尚和会、四期会からも多数のお参りがありました。

心からご冥福をお祈りいたします。合掌
幸せは天国にもあり花野

「山岳部」(回数も古希 を超えたOB会)

高十一期 山本 義生

我がOB会は、今年二月十一日の集まりで七十四回

目を迎えました。山歩き、メンバーの自宅での歓談、時には公民館での新年会等々……この会報が出る頃には第七十五回目(四月十八日、生駒山山歩き)を祝っていることでしょう。

後藤先生(平成十二年四月三日永眠・合掌)は九十六歳まで、OB会長として我々と一緒に山を歩き、盃を傾け、熱き議論を交わし、永眠される一週間前まで次回の集まりを楽しみにしておられました。

この「熱血大爺(オージ)」の意思を継いでその後は、数十年前は北棋のランドロンと言われた内田先生を新会長に、何と七十五回目を迎えることが出来ました。大番頭の黒パン(三期生、色黒く顔丸く声でかく、山では鬼と化す)、東西の名ある大学山岳部のメンバーから「桜塚のOBに異才あり」と一目置かれる十八期のE、エベレストに挑み惜しくも七千三百mで涙をのんだ十八期のM、

疲れを知らず何食っても下痢知らずの元日本山岳会員相澤先生、山にも強いが酒にはもともと強い十一期のS、その他会社経営や家業の多忙な中を奇跡的に皆勤とるんやろか、もう死んだ



んちやうか？」と噂される頃になるとヒョコツと顔を出す某や某……、勉強は今いちだったのが、山を愛し友を慕う連中が毎回少なくとも十数名は馳せ参じて、今日に至っています。

「社会に還元出来るものはないか？」が最近の中心話題です。志高く、楽しく有意義なOB会が今年も来年もずくと続いていきます。ではまた。皆様お元気で！



平成十五年度 会報年会費協力金

◆協力をありがとうございます◆
(金額は納入合計額。千円未満の納入会員は省略させていただきました。)

WEB 版非公開

平成十五年度總會

行事委員 柳井真知子

桜塚高校尚和会懇親会



平成十五年度の總會、懇親会は、五月十八日(日)にホテルアイボリーにて、開催されました。

会員、来賓合わせて、九十六名の御参加を頂き、ピュッフェ形式のお席に座わって、ゆつくりと御食事をして頂きました。

アトラクションの方は、卒業生(四十期)の幸田聡子さんのヴァイオリンで、とても素敵な演奏に、皆様うっとりされて、美空ひばりさんの曲目には、ご一緒に小さな声で、口ずさむ方もあり、とても素敵な時間を過ごさせて頂きました。

閉会後は、CDの販売やサイン会もあり、とても気



隔年の開催ということから四回目ではあるが、支部発足(一九九七)からは八年目となり、人数は近県も含めて凡そ千数百名という在籍者の割には少ないなあという感じがしますが、尚和会唯一の支部として、同窓会の活性化と発展に少しでもつながって

まいました。この間、本部の財政危機という憂うべき事態にも直面しましたが、「会報有料制」の導入という英断により、同窓生の意識改革を図り、今ではそれを克服し、且つ毎年、同窓生の協力心の度合いが増えつつあることを知り、同慶の至りであり、同窓会に参加することに意義があることは言うまでもありませんが、それだけでなく、支部に於いても、参加されなかった方の協力金(心)が支えとなっています。

七十分の一日(支部総会)は二年に一度のこと、タイムリを合わせて出席することは易しいことではありませんが、しかし、一言の言葉を添えて協力して下さった方々は

いつの日か参加して下さる同窓生です。支部では「一つでも新しい同期会が誕生する」ことを、目標としてきました。同窓会活性化のきっかけは先ず同期会の実施です。平成十三年に実施された「同期会開催助成金制度」の活用状況はどうなのでしょう。また昨年決定されました「会報無料配布」の新設も、会の活動、情報伝達の拡充に有効な施策であり、同期会開催の衆知手段として各期会員の活用を切望します。

本年の支部総会・懇親会は「参加しやすい同窓会」を合言葉に、○女性会員の会費優待○三十期以降会員の会費超ピンゴゲーム○同窓生出演のアトラクションなどを予定し、若い方々の参加を歓迎します。

九月初めには「ご案内」を郵送しますが、今回より関東地区在住の同窓生の卒期別名簿を各期別に同封します。親しかった同期生がお近くにいるかもしれません、久しぶりに連絡をとってみませんか。

声をかけ合って二人でも三人でも十月三十一日(日)に会ってみませんか。十年、二十年ぶりでも顔を合わせればそんな空白の時間は一瞬で霧散します。また、それが同窓の誼というものではありませんか。タイムスリップの刻に暫しの間、身を委ねて懐かし

く語り合うのも楽しいじゃありませんか。結構煩わしい場所や日時の設定・内容や予算の検討などは、支部がお引受けていますので名簿を利用して一声かけてみて下さい。

●総会・懇親会の概要お知らせ
一、場所 東京銀座六丁目 銀座ライオン・ブラッスリー
一、時間 正午より(昼食あり)
一、会費
男性・一人 八〇〇〇円
女性・一人 七〇〇〇円
三十期卒以降会員
・一人 五〇〇〇円
いずれも協力金
(一〇〇〇円)合

一、アトラクション 大道芸 笑福亭仁勇(高二九期) 本名 山澤健二
卒業後笑福亭仁鶴師匠に入門、古典落語、大道芸でチャリティー寄席開催、高齢者福祉に貢献
一、福引又はピンゴゲーム 関東以北の同窓生の皆様、また、今回の会報無料配布制

の対象卒期で、関東地区で同期会を持たれていない会員の方々の参加をお待ちします。東京支部総会についてのご相談・ご連絡は先にごとぞ。支部連絡先

TEL・FAX

●編集後記
会報創刊以来初めて頁数が十八頁になりました。十六頁が七年間続きました。が、昨年度より卒業後五年毎の期に会報の無料配布を実施した結果、例年より約七割増の会員より会報年会費、協力金の納付を頂き、その会員氏名掲載で増頁を余儀なくされ喜んでいました。▼母校の卒業式には毎年卒業として出席させて戴いていますが、「卒業生のことば」はいつも興味深く、四十年前の拙者の時代の卒業式とは隔世の感があり、雰囲気も当時とは大違いで、笑いのパフォーマンスで演じています。K・K、S・H両君が涙ながらに述べた「卒業はしたくありません。校長先生にお願いがあります。桜塚高校を四年制にして下さい」との言葉を聞き本心に素晴らしい三年間の高校生活を送ったのだと思います。▼六ページでも紹介の通り、平成十六、十七年度の二年間、新役員でスタートしました。今迄以上に尚和会活性化に向けて努力してまいります。ご期待下さい。 大島 光昭

TEL・FAX

TEL・FAX